繊維製品の感性評価と適合度の高い衣服設計

関連するSDGsの国際目標

人間文化学部　生活デザイン学科　　教授　　森下 あおい
研究分野：服飾デザイン、被服構成学
研究室HP：http://morishita-lab.jp/

概要：感性価値のある繊維の特性を活かして、新しい用途や快適性を向上させる服飾デザインの開発に取り組んでいます。これからの生活では個人の要望に沿うものを無駄なく作り、提供することが求められますが、急がれるのは体形や動作に合うファッションと開発です。人体計測をはじめとしたデータ分析と、体形と生活を取り巻く様々な設計要素から生活実態や労働実態に即した衣服を開発し、社会のwell-beingを実現したいと考えています。

■感性評価による製品開発

デザインの新しい意味やアイデアの創出には、消費者のニーズと素材の持つ特徴を、多角度から把握することが重要です。繊維の物性と人の感性の両面から、製品の特性を引き出すデザインを付加価値を表出させながら製品設計を行います。

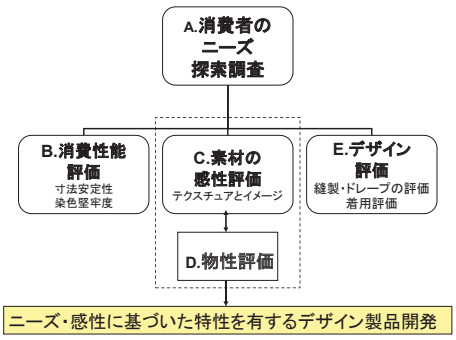


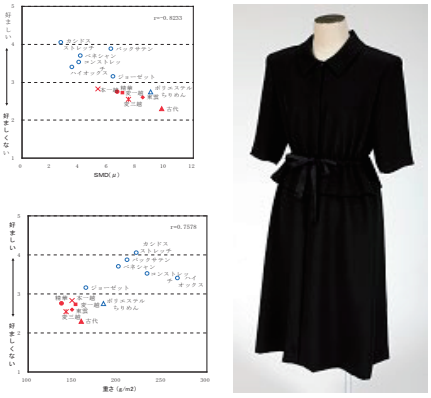
図１　調査から評価・分析への流れ

■3次元体形データによる適合度の高い衣服設計

外観と着心地の良さを備えた衣服には、着用者の体形特徴に合う設計を行うことが必要です。本研究室では、3次元人体計測データ解析から年齢や体形特徴に応じたデザインとその方法論、衣服パターンの展開について研究しています。特に座位姿勢による着崩れや圧迫などの課題を、動作分析から行い、立位、座位に関わらず、用途に合うファッション性を備えた衣服開発を進めています。



事例１　和装生地の風合い（しぼ）を活かしたデザイン開発



事例2　素材の風合い分析によるブラックフォーマルウェアの開発
（共同研究：滋賀県東北部工業技術センター）



事例3　座位の姿勢にも美しく適合する「女性用背広上着」

＜特許・共同研究等の状況＞
・特許第6447994号「女性用背広上衣」